

議員（金井 浩三）

3番、金井浩三、2点ほど一般質問させていただきます。

まず最初、1点目、地籍調査の進捗状況について。

今夏の未曾有の大雨は全国的に多大な被害をもたらしました。

特に7月の西日本豪雨では降水量が平年の4倍となった地方もあり、200人以上の死者を出す惨事となりました。

全壊した家屋も6,000棟を超え、いまだに避難所生活を送る人も多く、一刻も早い復旧が望まれるが、水害で流された土地の復旧には現地復元性のある地図が欠かせません。

これが登記所に備えられている（不動産登記法の）法14条地図と言われるもので、地籍調査によって作成されます。

しかし、地籍調査は日本全体での進捗率は52%にすぎません。

20%未満のところは11府県あり、地図の不備が問題になるのは災害時だけでなく売却にも影響を及ぼします。

そこで質問します。

多度津町の地籍調査の進捗状況をお伺いします、全体の何%か。

よろしくお願ひします。

町長（丸尾 幸雄）

金井浩三議員ご質問の地籍調査の進捗状況についてお答えをしてみたいです。

金井議員の地籍調査の進捗状況はどうなっているのかについて答弁をさせていただきます。

土地の戸籍づくりとも言える地籍調査は、本町では平成21年度の西港町、東港町、堀江5丁目より調査区を定めながら毎年実施をしております。

今年度は9月より青木地区の調査を開始しております。

議員ご指摘のとおり土砂崩れ等の災害が発生し、家屋や田畑、道路などの境界がわからなくなってしまった場合、地籍調査が行われていないと現場復旧に大きな時間と労力を費やし、早期に日常生活を取り戻すことが困難になります。このため、地籍調査を実施する地区の方々を対象とした地籍調査地元説明会においてDVDの映像を活用し、地籍調査を実施していた結果、災害時の復旧作業が早期に行われ、争いごともなく日常生活を取り戻すことができた事例を放映し、地籍調査の重要性を訴えております。

さて、現在の本町の地籍調査の進捗状況でございますが、平成29年度末で本町全体面積24.39平方キロメートルに対しまして、調査を手がけている進捗割合は32.22%の7.86平方キロメートルでそのうち法務局への届け出までが終了している実施済み割合は20.58%の5.02平方キロメートルでございます。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（金井 浩三）

今の町長の答弁で、9年間で大体全体の32%、3分の1ということは、単純に計算すればあと18年かかるということになります。

そこで、もう一点質問させていただきます。

一年でも早く終わらせる努力はしているのか。

現在何班でやっているのか、質問します。

産業課長（谷口 賢司）

金井議員の地籍調査の進捗状況についての一年でも早く終わらせる努力はしているのかについて答弁をさせていただきます。

先ほどの町長の答弁の中でも申し上げましたとおり、地籍調査の実施は単に土地の境界を明確にするだけでなく、災害を被った場合に迅速な原状復旧に役立ちます。

このため、早期に町内の地籍調査を終了させる必要があると考えております。今年度4月の機構改革により建設課より地籍係を産業課に移管し、地籍推進室を新たに設置いたしました。

これは、これまで以上に同調査を迅速に行うことを目的にしたものでございます。

現在の室員は室長を含めて3名の職員と1名の臨時職員の4名で、調査は1班体制で行っております。

今後はさらなる調査の迅速化を図るため、人材の配置や業務委託、業務研修等の見直しを検討しなければならないというふうに考えておりますので、ご理解賜りますようよろしくお願いいたします。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（金井 浩三）

ぜひとも、今答弁された再検討よろしくお願いいたします。

それでは次2点目、瀬戸内国際芸術祭2019についてお伺いします。

来年2019年に瀬戸内国際芸術祭が開催されます。

多度津町も参加すれば3回目となります。

第1回目2013年高見島来場者2万4,371名、第2回目2016年2万1,028名、高見島の人口2013年約41名、2016年約27名、そして今現在2018年約17名と聞いております。

そして、この夏の知事選挙に投票に来た人14名、島の人々は芸術祭を盛り上げ、来場者の人々と交流を図り、そして元気に活動してもらいたい。

しかし、今の状況では島の人々に迷惑ではないのかと思います。

そこで質問します。

昨年1年間で高見島に観光に来られた人数は何名でしょうか。お願いします。
政策観光課長（河田 数明）

金井議員の瀬戸内国際芸術祭2019についてのご質問に答弁をさせていただきます。

ご質問にあります昨年1年間の高見島への観光客数でございますが、純然たる観光客のみの数字は把握できておりませんので、毎年行っております港湾統計調査によりますと、10年前の平成21年度に多度津高見間の定期航路を利用して移動された方は往復路平均約8,000人で、当時の島の住民基本台帳人口が68人でありますので、1人当たりの定期航路の利用回数は117回になります。昨年度の島の住民基本台帳人口が39人ですので、単純計算になりますが、島民の利用者は約4,600人となります。

昨年度の統計調査の定期航路利用者が往復路平均約6,700人でありますので、島民の航路利用の増加を加味いたしましても、瀬戸内国際芸術祭開催以降、ある程度観光客がふえているのではないかと推測されます。

しかしながら、近年観光客が増加しております佐柳島に比べますと少ないのが現状でありますので、今後は「しま山100選」にも選ばれた竜王山など新たな観光資源を見出し、観光客の集客に努めたいと考えております。

以上、簡単ではございますが答弁とさせていただきます。

議員（金井 浩三）

関連質問させてもらいます。

芸術祭に参加するための費用は総額幾らになりますか。

政策観光課長（河田 数明）

ただいまのご質問の答弁をさせていただきます。

来年に開催される瀬戸内国際芸術祭に参加するに当たり、県瀬戸内国際芸術祭実行委員会への負担金として、昨年度に100万円、本年度に325万円、来年度に325万円の総額750万円が必要でございます。

そのほかに、前回の開催で支出しております、瀬戸内国際芸術祭多度津町実行委員会への負担金、及び芸術祭の開催期間中、高見島と丸亀市の本島、高見島と三豊市の粟島を結ぶ臨時航路の開設に対する負担金などを含めますと、瀬戸内国際芸術祭2019の開催費用の総額は約1,500万円程度になる見込みでございます。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（金井 浩三）

今のご質問の質問ですが、それでは国際芸術祭2019について多度津町への経済効果は幾らぐらいあると試算されてますか。お願いします。

政策観光課長（河田 数明）

ただいまの再質問に対しまして答弁を申し上げます。
私の知る限り、過去におきましても経済効果を算出しとるものはございません。

しかしながら、少なからずとも島におきまして、島の方々、店を開き、販売等も行い、食事も提供するなど活動を行っております。
今後開催するに当たりましてはそういう経済効果も加味しながら考えていきたいと思っておりますので、大変申しわけありませんが簡単な答弁とさせていただきます。

町長（丸尾 幸雄）

金井議員ご質問の再質問につきまして追加で説明をさせていただきます。
この瀬戸内国際芸術祭は香川県が主催をしております、香川県全体に対する経済効果というのは常に計算をしております。

その中では私は詳しい数字は今記憶しておりませんが、随分と香川県全体に対しましての経済効果は起きております。

そして、その中で、じゃあ参加している島々、それぞれにどのくらいの経済効果があるかということは、今私どもの河田課長が申しあげましたように、計算はしていないだろうし、把握もできてないと思っております。

ただ、ただですね、高見島だけではなくて、先ほど金井議員さんの答弁じゃなくてほかの人の議員さんの答弁でもお話をいたしました、佐柳島のネコノシマホテルっていうところには瀬戸内国際芸術祭に参加した方がほとんど行っていると思っております。

そして、その村上さんにお話をお伺いしましても、随分とふえてきている、そして大きな連休のときは予約でいっぱいになる。

その予約でいっぱいになるっていうのは町外から来られてる方だけじゃなくて島の島民ですね。

高見とかまた佐柳の島民の方々がお盆とかそういうときに帰ってこられたときにそこに泊まっている。

そして、そういう方々が島のことをもう一度新たに理解を示し出して、そして高見島の瀬戸内国際芸術祭の宣伝もしているということでもあります。

また、高見の島の方が瀬戸内国際芸術祭の期間中は手伝いに帰ってきている。高見島で教員をされた方々が高見のために高見に世話になったから高見に帰ってきて、そして手伝いをしていただいている。

そういうようなことも全て、地域の活性化または多度津町、高見島の宣伝効果も上がっていると思っております。

今回の2019年度におきましては、先ほど申しました佐柳のネコノシマホテルまた多度津町内の活性化も含めて、いろんなさまざまなことを今政策観光課で

企画をしております。

瀬戸芸に来られた方が多度津町内のほうにも足を延ばしていただく、多度津町を知っていただく、多度津町の物を買っていただく、そのために今京都精華大学と学術的な連携協定を結んでおります。

そして、今回も高見島での作品の展示は京都精華大学の先生及び学生さんをお願いをしてるんですが、そういう方々の作品も町内でも展示をしようと思っております。

それは、私どもの多度津町にいる著名な芸術家も含めて、今、歴史、伝統文化のある町ということで多度津町で地域創生事業を行っておりますが、それに加えてアートの町多度津というのを売り出していこうと思っております。

そのアートというのは瀬戸内国際芸術祭が基本になっております。

今、河田課長の補足の意味の中で答弁をさせていただきました。

議員（金井 浩三）

最後に、ちょっと要望だけしておきます。

今からいろいろ事業をしたいと思います、最後にやはり検証することも大事ではなかろうかと思えます。

以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。